

書評

永井厚志 編

呼吸器診療 ゴールデンハンドブック

自治医科大学呼吸器内科教授

杉 山 幸比古

永井厚志教授率いる東京女子医大の呼吸器グループにより作られた、コンパクトサイズの本である。若いドクターや呼吸器を専門としないドクターをターゲットとして、臨床現場ですぐに使えるポケットサイズとして企画されている。大きく救急、外来、入院の3つのパートがあり、その後に検査、治療、薬剤の3つのパートがある実践的な構成となっている。

外来パートでは、問診のポイントが表になっており、大変便利で

ある。本文も箇条書きで読みやすく、膨大な呼吸器病学の情報がコンパクトにまとめられており、初学者にとっては手元において臨床に当たると大変役に立つ本と感じた。入院のパートでは、ガイドライン、プロトコルを意識して書かれており、現在のベーシックな標準治療を確認できる。巻頭で永井教授も述べられているように、これらに味付けをすることにより、患者さん個々のニーズに合わせた一段高い治療を構築して頂く

とよいと思われる。

治療に関しても具体的薬品名と用量が提示されており、また、副作用の記述も詳しく、小さい本ながら情報の濃度はきわめて高い。とくに随所にある表はカラー化され見やすく、ちょっとした事柄で念のため確認しておきたい情報でもれなく記載されており、専門家、ベテランにも役立つであろう。臨床現場の机において、気軽に頁をめくって活用できる、きわめて実用向きの書籍という印象である。白衣のポケットにすっぽり入ってしまう手軽なサイズの情報源である。

〔新書版 384 頁 2008 年 10 月
発行 定価 4,410 円(本体 4,200
円+税 5%) 南江堂刊〕